

報道各位

新潟市潟東樋口記念美術館
新潟市潟東歴史民俗資料館

企画展 「おひなさま展」の開催について

幻の舟月（江戸三大名人の1人）を始め、全国屈指の時代色・地域色豊かな優品をメインに、多種多様なカワイイお雛様を飾ります。併せて、地元出身の日本画家・尾竹三兄弟の雛絵や皇室・宮家ゆかりと伝えられる館蔵品も展示しています。

多くの方からご覧いただきたく、広報活動にご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

1. 日 時

開催期間：令和7年1月21日（火）～3月30日（日）

開館時間：9:00～16:00

休館日：1/27、2/3.10.12.17.25、3/3.10.17.21.24

2. 会 場 ：潟東樋口記念美術館・潟東歴史民俗資料館

新潟市西蒲区三方92番地

3. 入 館 料：一般500円 小中学生300円

※土日祝日は小中学生無料

4. 内 容 ：別添のチラシ参照

5. 問い合わせ：新潟市潟東樋口記念美術館

担当：学芸員 橋本 電話：0256-86-3444

新潟市潟東地区公民館

担当 村越・佐久間 電話：0256-86-3077

まぼろしの

湯東樋口記念美術館・湯東歴史民俗資料館

おひなさま展

主催 西蒲区文化施設を運営する市民の会・新潟市
協力 越後おひなさま保存研究会

2025年

1月21日(火)

3月30日(日)

月曜日休み
(月曜日が祝日の場合は翌日)
祝日の翌日休み
(日曜日が祝日に当たる場合はその翌々日)

9:00 ▶ 16:00

おひなさまトーク

2/15(土) 10:00~11:00

平野礼子

3/1(土) 10:00~11:00

川上 徹

尾竹三兄弟越堂・竹波・國親雛絵
舟月・仲秀英・渡辺玉翁・古今雛
元禄雛・享保雛・次郎左衛門雛
有職雛・三春張子雛・瀬戸焼小鈴雛
常滑焼雛・手造り吊るし雛・他

江戸古今雛

舟月 作 川上 徹 所蔵

湯東樋口記念美術館
湯東歴史民俗資料館

〒959-0505新潟市西蒲区三方92番地

TEL 0256-86-3444

西蒲区文化施設を運営する市民の会

新潟市(湯東地区公民館) TEL 0256-86-3077



越後おひなさま保存研究会
<https://www.facebook.com/groups/847716433515203>



潟東樋口記念美術館・潟東歴史民俗資料館

おひなさま 展

主催 西蒲区文化施設を運営する市民の会・新潟市
協力 越後おひなさま保存研究会

2025年 1月21日(火) ▶ 3月30日(日)

休館日: 1/27, 2/3, 10, 12, 17, 25, 3/3, 10, 17, 21, 24

おひなさまトーク

2/15(土) 10:00~11:00

平野礼子

3/1(土) 10:00~11:00

川上 徹

説明文敬称略



江戸古今雛

舟月 作 川上 徹 所蔵

舟月は江戸の代表的な人形師で古今雛という新たなジャンルを確立。その中で本雛は初期のものと思われる、約45cmと大変大きく豪華です。



次郎左衛門雛

江戸 ギャラリー沙蔵 所蔵

京都の人形師菱屋(雛屋)、岡田次郎左衛門が造り始めた雛で、団子のような丸顔にスーッと引かれた引目に鉤鼻、ちょこんと描かれたおちよぼ口が特徴の雛です。



古今雛 描き目

江戸 京都製 猪本 爾六 所蔵

雄雛は東帯姿で、木瓜紋の浮線綾文様、袴まで金糸刺繍がほどこされています。雌雛は金糸で五三の桐が刺繍されています。桐紋を賜る家からの興入れのさいに仕立てられた雛でしょうか。



享保雛

宝暦7年(1757年)約45cm

川上 徹 所蔵

雌雛は袖と裾が重ねた五衣(いつつぎぬ)が特徴で、45cmと大きく、金糸を履んだん使い、煌びやかで豪華です。天冠にも損失もなく、瑠璃(ようり)の玉は手前が薄く奥が深い色にグラデーションしています。



瀬戸焼の小鉢のお雛様

遥おひなさまコレクション
平野 礼子 所蔵

焼き物ショップでみつけたものです。脚付の重箱に入れていつも飾っています。

尾竹三兄弟
越堂・竹坡・國観
雛絵



尾竹國観

尾竹三兄弟:父親が現・新潟市南区(旧白根)、母親が現・新潟市西蒲区(潟東村)出身の当地に縁のある日本画家の越堂・竹坡・國観の三兄弟。中央画壇の帝展でも活躍した。



常滑焼人形
お雛様

遥おひなさまコレクション
平野 礼子 所蔵

常滑焼=急須のイメージがありますが、こちらのお雛様は、煌びやかというより、シックな感じに一目惚れしました。



手作り
吊るし雛

潟東保育園
潟東小学校
グループホーム
中之口



福島 三春張子のお雛様

遥おひなさまコレクション
平野 礼子 所蔵

張子のお雛様です。写真は二人だけですが会場には10人そろっています。お雛様コレクターのおいちゃんからゆずっていただきました。表情がとてもユニークで楽しそうです。

潟東樋口記念美術館
潟東歴史民俗資料館

〒959-0505 新潟市西蒲区三方92番地

TEL 0256-86-3444

交通/ JR新潟駅より新潟交通バス:大野・ふるさと村経由
新潟営業所行、潟東営業所よりタクシー-5分
JR越後曾根駅よりタクシー-15分

西蒲区文化施設を運営する市民の会
新潟市(潟東地区公民館)

TEL 0256-86-3077

越後おひなさま保存研究会

<https://www.facebook.com/groups/847716433515203>



ご挨拶

「おひなさま展」にご来場頂きありがとうございます。

古来女の子の息災と成長を祈り飾られてきたお雛様は。日本独自の文化で、江戸時代の奢侈(しゃし)禁止令などで、度々禁止制約をうけたため、逆に多様な形に変化し発展してまいりました。

本展示では、多様に変化したお雛様を多数展示いたしました。江戸時代の元禄雛、享保雛、有職雛、次郎左衛門雛、押絵雛や原舟月、仲秀英、渡辺玉翁、等作の古今雛、現代の造形作家によるお雛様、手作りのつるし雛、壁面にも尾竹三兄弟のお雛様の掛け軸をはじめ沢山展示がございます。いにしえより、子の成長を祈り受け継がれてきた総合芸術ともいえるお雛様の展示をお楽しみください。

最後に「潟東樋口記念美術館」「潟東歴史民俗資料館」「越後おひなさま保存研究会」と「かたひがし保育園」「潟東小学校」「グループホーム中之口」の皆様の協力より展示致しました。この場を借りて御礼申し上げます。

令和7年1月21日

越後おひなさま保存研究会 松本 泰典

「越後おひなさま保存研究会」は越後の雛を保存研究しようとして一昨年できたばかりの会です。お雛様大好きで集めたり調べたりして情報共有したいという人。ぜひご連絡ください。



重ね色紙形梅木文ボンポニエール
(久邇宮家)



二月堂粥食器 (高松宮家より)



柏葉宮形ボンポニエール (天皇家)



脚付箱形松竹梅文ボンポニエール



箱形葵文・鸞文ボンポニエール



菊花紋章手鏡 (有栖川宮家)



箱形鳳凰文ボンポニエール (梨本宮家)

皇室・宮家ゆかりと伝えられる
館蔵品ミニ展示

令和七年一月二一日(火)
三月三〇日(日)

新潟市 潟東樋口記念美術館

新潟市西蒲区三方 92
TEL 0256-86-3444

伝・貞明皇后遺品 谷文晁作《百花図》

9:00~16:00 休館：月曜（祝日の場合は翌日）、祝日の翌日

入館料：大人 500 円 小中学生 300 円（土日祝日 小中学生は無料）

問い合わせ先：TEL 0256-86-3077（潟東地区公民館）

同時開催：おひなさま展



交通/JR新潟駅より 新潟交通バス：大野・ふるさと村経由
潟東営業所行、潟東営業所よりタクシー5分
JR越後曽根駅よりタクシー15分

『皇室・宮家ゆかりと伝えられる館蔵品ミニ展示』開催にあたって

当館の館名は地元潟東出身の樋口顕嗣翁の名に因んでいる。樋口翁は若くして東京に出、事業に成功して多くの美術作品を蒐集された。その氏によって寄贈されたコレクション中には皇室や宮家・華族にゆかりの深い優れた作品群が目目を惹く。

このたび、長岡の新潟県立近代美術館で開催される皇居三の丸尚蔵館収蔵品による『皇室の名宝と新潟』展に合わせて、館蔵品の存在を知っていただくべく、関連作品をわずかではあるが急遽ミニ展示することとなった。

フランスで菓子器として使用されていたボンボニエールの銀器は日本の皇室の慶事の際の引き出物として採用されるようになったものである。当館に伝わるボンボニエールには、その使用の経緯が記されたものが含まれ、貴重である。

その他、貞明皇后（1884-1951、大正天皇皇后）遺品と書付のある日本画掛け軸もあり、その中には谷文晁作と伝えられる2点（《百花図》、《雪中鴛鴦図》^{えんおう}）の作品も含まれている。真贋のほどは定かではないが注目される作品である。なお、「貞明皇后御遺品」の貼り紙のある大幅軸箱には火災痕跡の煤が付着したものや炭化したものが認められる。その中には表具直し前の左上が水損した2作品（中田松喬《四季花卉》、佐藤華岳《芙蓉と鴨》）がみられる。おそらくマクリ状態にあった2作品が重なった状態で同時に水損したものと推定される。これらは火災に遭った池田侯爵邸から運び出されたと伝えられる作品群である。

石川美峰（1892-1969）作題不詳屏風作品は琴を弾く女性とその傍で読書をする女性を描いたものである。美峰が委員を務めていた日本美術協会の前身、龍池会は宮内省との関係を深め、明治20年（1887）に有栖川宮熾仁親王^{ありすがわのみやたるひと}を総裁に迎えて「日本美術協会」に改称した。美峰は日本国画院を主宰し、宮家御用絵師として活動していたようである。よって、本作も皇室・宮家からの伝来品と想定される。

濱地清松^{はまちせいまつ}（1885-1947）作油彩画《晴れ着の少女》は、東宮教育参与として当時の皇太子殿下（後の昭和天皇）の教育に当たり後に慶應義塾長（1933-1946）をも務めた小泉信三氏の令嬢を描いた作品と伝えられている。これまた、皇室との接点のある作品と言えよう。

その他、秩父宮家からとされる《高麗式相嵌紋銀製花瓶》、有栖川宮家家紋入り手鏡、高松宮家からの《二月堂粥食器》も展示した。常設展示の毛利侯愛用と伝えられる石川光明作《龍紋唐櫃》、作者不詳の《高蒔絵飾り棚》も見どころである。

令和7年1月21日

新潟市潟東樋口記念美術館

橋本 博文

瀧東樋口記念美術館・瀧東歴史民俗資料館 展示風景

